



とちぎの慣習・ことば

～のこしていきたい
つたえていきたい とちぎ人の想い～

栃木県には、地域の中で協力し合いながら行われてきた行事や相手を気遣う行動、言葉掛けなどが数多く根付いています。県教育委員会では、昨年度、身近に伝わる慣習・言葉を県内外の皆さんから広く募集し取りまとめました。今回はその中からいくつかをご紹介します。今月15日の「県民の日」を前に、先人の生活や文化に“想い”を寄せ、ふるさと“とちぎ”の素晴らしさを見詰め直してみませんか。



しもつかれ

初午に作り、赤飯と一緒に稲荷様へ供え、五穀豊穡や商売繁盛を祈願します。栄養満点で、各家庭の味があるため「七軒のしもつかれを食べると病気になる」という言い伝えもあります。正月の塩引き鮭の頭や節分の大豆、鬼下ろしで下ろした大根・にんじん、油揚げなどと酒粕を煮込んで作ります。食べ物を無駄にしない文化として伝わり、とちぎを代表する郷土料理です。

ぼうじぼ、わらでっぼう

旧暦の8月15日と9月13日に、美しい月を眺めながら秋の实りに感謝する月見。この日は、月の見える縁側に月見団子とススキ、季節の野菜や果物を供えるのが一般的です。



「ぼうじぼ」で地面を打つ子どもたち (提供: プレーパークしもたか)

本県ではそれに加え、子どもたちが近所の家を回りながら、「ぼうじぼ」「わらでっぼう」と呼ばれるわらで編んだ棒で地面を叩き、「大麦当たれ、小麦当たれ、三角畑のそば当たれ」などと豊作祈願の掛け声を上げます。地面を打つことによって、作物に害を与えるモグラを退治できるといわれ、ご褒美に家々からお菓子やお駄賃がもらえる、子どもたちにとってうれしい行事です。

釜の蓋

旧暦7月1日は、地獄(ここではあの世のこと)の釜の蓋が開き、先祖がお盆にあの世から帰ってくるための旅を始める日といわれます。

本県では、長い道のりを帰って来る先祖のために、この日に合わせて仏壇に炭酸まんじゅうを供えます。

これは、先祖のお腹がすかないようにするため、他に「先祖が迷子にならないよう墓から家までの道のりに供える」「お盆までの旅日数分の13



炭酸まんじゅう

個のまんじゅうを供える」という地域もあります。

端午の節句

5月5日に、よろいかぶとを飾り、こいのぼりを揚げて男の子の誕生と成長、立身出世を祝う慣習です。

本県では、市貝町の「大畑家の武者絵のぼり」、佐野市の「佐野武者絵のぼり」(いずれも県伝統工芸品)に代表される、勇ましい武者が描かれた「武者絵のぼり」をこいのぼりと共に立てる地域があります。一方で、「平家の落人伝説」で有名な日光市湯西川地区には、こいのぼりを揚げない慣習が残されています。



武者絵のぼり

サガンボ、モロ

サガンボはアブラツノザメ、モロはネズミザメのこと。煮付けにするのが一般的ですが、学校給食でフライなどにして提供されることもあります。



サガンボの煮付け

サメは、時間が経つと体内にある尿素がアンモニアに変化するため、腐りにくく保存性が高い魚です。冷蔵庫がなかった時代に、本県では貴重な海の魚として流通し、とちぎならではの味となりました。



モロの煮付け

天王祭



宇都宮二荒山神社天王祭 (提供: 宇都宮観光コンベンション協会)

疫病退散を祈願して夏に行われる祭りで、病気の流行を防ぐため、みこしが荒々しく担ぎ回され、山車や屋台ばやしが出されるのが特徴です。

県内でも夏祭りとして各地で行われていますが、祭られる神様によって、祭りの名称やみこしの担ぎ方が変わるなど、地域による違いも見られます。

使ってみよう！ とちぎのことば

こでらんない

意味 たまらない、素晴らしい

使い方 (温泉に入って)

「ああ、こでらんねえ」
(県内産いちごを食べて)
「とちぎのいちごはこでらんない！」



あつたらもん

意味 もったいない、大事なもの

使い方 (まだ使えるものを取っておきたいときに)

「あつたらもんだから、それは取っておけ」

ませる

意味 仲間に入れること

使い方

(先に遊んでいる友人の輪に入りたいときに)
「私もませーて！」

だいじ

意味 大丈夫

使い方

(失敗した相手を励ますときに)
「そなんだいじだから、気にすんな」

雷様

意味 雷

使い方

(雲行きを見ながら)
「こらあ、夕方には雷様だなあ」



雷様が来たまる～！

「とちぎの慣習・ことば集」を公開しています

県ホームページでは、今回紹介したものも含め30の慣習と20の言葉を、その歴史や意味などと共に掲載した「とちぎの慣習・ことば集」のこしていきたい つたえていきたい とちぎ人の想い～」を公開しています。



とちぎの慣習・ことば 検索

7月には冊子版を作成し、県内の小・中学校、高校や公民館、図書館に配布する予定です。

本県に残る慣習や言葉について、より深く調べるきっかけや家族・友人との話題として、ぜひご利用ください。